



“4月の気持ち”

園長 高杉 洋史

Photo by
Hirosi Takasugi

私が小学生だったころ、母から「遊んでばかりいないで、勉強しなさい」とかテレビばかり見てないで、宿題は済んだの「なんて言われていました。時代は移り変わり、最近の親は、子どもがのびのび走り回っているかどうか心配になってきました。スマートフォンやゲーム機に時間をとられているのではない心配ですね。下ばかり見てないで、空を見上げてほしいですね。

そして大人もSNS(ラインなど)に縛られていないか心を落ち着けて毎日の生活を顧みるのもいいですね。我が子の絵から子どもが聞こえますか。子どもが感じている質感や人間関係とか心持ちを見て取れますか。ひよつとしたら私たちは優先順位を間違えているのかもしれない。スマートフォンでの情報より、我が子が発している情報のほうがはるかに大切なのに。

「ことばって、何だと思う？」

「けっしてことばにできない思いが、」

「ことばあると指さすのが、ことばだ。」

(長田弘)

(花を持って、会いにゆく)の一節

絵の中から、声や音が聞こえてくる話は画家の千住博さんの文章から知りました。詩人の長田弘さんも、愛する人から発せられた言葉の向こうにあるもの大切さを現わされています。

さて幼児教育に携わっている私たちは、子どもたちの声や絵の中から、本当の気持ちを汲み取る毎日ができていくか年度初めに当たりもう一度ふりかえり、子どもに最も近い大人としてあそびの環境を見直しているかと思えます。

私もスマートフォンもタブレットも使っていない便利さの向こうに大切なものを置き忘れていないか考えてみます。

長田弘さんの別の詩に次のような一節があります。

人が得てきたものは、得ることによって、失ったものだったのだと思える。

真実はつねに逆説的なのだ。

(朝の習慣)

もつともつと心を込めて子どもに向き合おうと思えます。